

積極進取

☆ 合格を決めるのは判定基準ばかりじゃない

前号からの続きです。

合格する確率が20%以内というE判定で受かったという人はよく聞きますし、合格確率80%以内のA判定で合格できなかった受験生もたくさんいます。試験当日、全ての力を出し切ったという受験生はまれで、むしろ、出し切れなかった受験生ばかりです。体調が思わしくなかった・・・特に熱がある人ならば集中力は大幅ダウン、咳など迷惑になっていないか気にしてできないことも。

また、模擬試験では判定を出せる大学を複数校選べるので、受験者は多くの大学にネットを張っています。

模擬試験で判定の大学希望者数 ≠ その大学受験者数

なのです。もちろん逆もあります。受験者が少ないとみるや、安全パイだと感じ滑り止めに受ける人も増えますので、その分、数値的に変動が生じます。

現役生の模擬成績が、9・10月の模試成績 < 11月12月の模試成績(判定)である3年生には、その判定に惑わされることなく第一希望を貫き通すことを勧めています。

言いたいことは、

『A、B判定でも油断せず全力で取り組む。』

『D、E判定でも諦めず頑張れば受かることも充分可能』 です。

このことは現役受験者に顕著に見られる現象で、9月以降の伸びがよいからです。特に那覇高校生は諦めない生徒が多く、後期でも多くの合格者を出しています。

☆ 浪人すれば受かる？

あきらめの早い受験生からよく出てくる言葉が、『浪人して受かる』です。本当でしょうか？

実は、これまでのデータからはそのことは言えないようです。多くの生徒が浪人して伸ばせる成績がセンター試験にして30点ほど、と考えられています。飛躍的な伸びはよっぽどのがない限り期待できません。もちろん一般的なことであり、人によっては100点以上伸ばす受験生もいるでしょう。しかし、進路指導の先生方の常識としては、『現役で頑張れない生徒は浪人しても危ない』となりますか。是非とも現役で目指す大学に合格したいものです。

那覇高生の特徴として、

① 1学期のインターハイまでは部活に頑張る。受験勉強は3年から。

② 国公立大学に受かる自信がないから私立大学の推薦を受ける。

③ 諦めない生徒は合格を勝ち取る。

があると考えています。

保護者の皆様の中には、生徒が弱音を吐き、レベルダウンしてしまうのを安易に許容してしまう方がいませんか？ 特に6月のインターハイ直後から勉強がおっくうになってしまっただけの生徒には、絶対許さないようによくよく考えて進路を決めさせるようにしてもらいたいものです。

